政財産は基本的にないと認識しています。

Q 市所有の普通財産の総面積と現在の状況はどうか。

A 財政課長　平成25年度決算ベースでございますけれども、約22・4ヘクタールを保有しています。

主立った普通財産につきましては、貸付地として、行政機関、区及び民間事業者等へ9・3ヘクタール貸付をしています。残りの13・1ヘクタール、全体の58・4％になりますが、こちらが遊休地となっています。

Q 現在、普通財産の維持管理はどのようにされているのか、また、年間維持管理費用はどの程度かかっているのか。

A 財政課長　普通財産については、財政課で管理をしております。

維持費については、貸付地については、契約に基づき、貸付者に維持管理を行っていただいております。

遊休地については、除草作業が主な作業になりますので、シルバー人材センター等に作業を委託しております。こちらにかかる年間の維持管理費用は、平成24年度実績で52万円ほど、平成25年度実績で42万円ほどとなっております。

Q 公有財産の取得に際して、資産管理経営室にて協議されているのか。

A 財政課長　公有財産の取得に当たりましては、全て資産管理経営室で協議を受けるようにしています。

Q 市所有の普通財産の利活用また処分は、今後どのようにされていくのか、市の考えはどうか。

A 市長　普通財産の処分・利活用ですが、専門に資産管理をする担当を作りましたので、有効かつ具体的な土地利用ができない資産については、処分を考えていくとしています。

また、市有財産の活用をするために、ファシリティマネジメントの考えを取り入れて、最適な財産管理の仕組みを構築したので、その中で、財産の状況を把握し、利用見込みのない土地につきましては、売却等も視野に含めて考えています。

Q 市所有の行政財産のうち、未利用地の利活用について何かお考えがないのか。

A 市長　さらに一段進んだ活用ができないかということについては、大きさや場所によって、ケース・バイ・ケースで考えていかなければならない問題だと思っています。利用率も含めて、必ずしも全ての行政財産が有効に活用されていないという御指摘もあろうかと思います。

そういった意味で、一つ一つの検討を、御提案もいただきながら、これからやっていきたいと考えています。

Q 教育長のすばらしい所信に「厳しい社会でたくましく生きる力を持つ人材の育成、知・徳・体が大切な要素、全ては子ども達のために、失敗を恐れず、率先して環境を作る」とあった。

子ども達のために、公有財産、遊休地のさらなる活用、使い勝手のよい活用を要望する。

現に、今、子ども達から要望がある。そこに決定が定まらない遊休地もある。この質問に対しての市長のお考えはどうか。

A 市長　すてきな御提案ありがとうございます。市民がさまざまな考え方を持ち、それぞれの考え方に従って、活躍ができる場を提供するということが、非常に大事だと思っています。

公共の財産の利用について、私どもは、一定の縛りの中で物事を考えてやっていますし、また、議会の皆様方からは別の角度でごらんになって、別のお考えが出てくると思いますし、また、それぞれの、例えば、子どもを持ったお母さんの考え方、あるいは、地域としての考え方と、お立場はお立場でさまざまな御提案があるかと思います。

そういった意味では、皆様方の御意見が、相反しないような形で考えていかなければならないと思っていまして、市民からの合意をとれるように、これからも努力をして、御提案の夢を実現していければと考えています。

個人質問

林　善和 議員

地域活性化について

Q 市長はこれからのまちづくりについて、各地域の特性を生かした、分散型のコミュニティを考えると広報紙で話している。去る7月19日に、山武西小学校を会場に、第17回山武西大木夏まつり2014年が開催されたが、この祭りは、山武西小学校の創設とともに、大木地区の区会が主体となって、17年間、活動を継続している。年々、拡大・発展し、現在は地域の小さなお子様からお年寄りまで楽しみながら、この地域に欠かせない夏祭りになっている。しかし、拡大・発展する一方で、活動費が年々、厳しくなってきていることも耳にする。山武西小学校区の多くの団体や多くの方々のかかわりのある地域の大切なお祭りなので、今後も継続できるようにすることが、この地域の大きな課題と考えている。地域まちづくり協議会は、地域の課題解決のための組織づくりと認識しているが、モデル事業地域の候補地としての検討はどうか。

A 市長　以前から、大木の夏まつりが素晴らしいということ、また、最近はなかなか運営費が厳しいということも伺っています。補助金等について、地域を大切にするという意味で、検討はさせていただいていますが、新たな補助制度を作ることも、非常に難しい時代です。今、地域まちづくり協議会をさらに進めて、地域で、地域の問題について、みんなで話をしていただき、地域ぐるみで、